



# Essay

## 鳥取県の名水展



環境デザイン学科  
教授 十倉毅

Tokura Tsuyoshi

平成18年8月最後の一週間、中国電力(株)のご好意で「鳥取県の名水展」を開催させていただきました。場所は、鳥取市内の「中電ふれあいホール」、その内容は、学生諸君と実施した調査研究の成果を17枚のパネルにまとめたもので、来展者には「鳥取県の名水地図」を配布した。また、会場では鳥取県東部・中部・西部の名水試飲コーナーを設けるとともに、水に関する遊戯として「水琴窟」と「龍洗」を持ち込んだ。

「龍洗」は、日本語大辞典(講談社)にも載っていない。黄銅製の鍋の取っ手を擦ることにより鍋が共鳴し、内部の水が噴き上がる装置である。筆者はこれを、講義における「板状材料の共鳴現象」を説明する教材として重宝している。その名前を知ったのは、万里の長城(明代)の東端、山海関の小堂であり、古くは祭祀器として使用されたという。

上述の名水地図はなかなかの好評で、正味6日間で700枚余がさばけた。複数枚を持ち帰る人もいたから、正確な来展者数は不明であるが、一人2枚として、350~400名が妥当なところであったように思う。ご来場者は、ほとんどが中年層で、この週末には新しい水場を訪ねてみるというご夫婦も何組かおられた。先年、家内を亡くした身にとって、ご夫婦の会話は、何とも羨ましかった。抗がん剤を拒否し、自然免疫療法に頼った妻は、私の鳥取から大阪に運ぶ湧水を楽しみにしてくれていた。

さて、今回ここに展示した成果は、本学カリキュラムの特色の一つである「プロジェクト研究」(以下、プロ研という)による。プロ研は、半年ごとに終了し、その構成は、次のようになっている。

1年次	プロ研 1・2	前期・後期
2年次	プロ研 3・4	前期・後期
3年次	プロ研 5・6	前期・後期
4年次	プロ研 7	通年、卒業研究

1、2年次のプロ研1~3では、全学科(環境政策、環境デザイン、情報システム)の学生諸君が、教員の提示したテーマを選択し、学科の枠を超えたチームを編成する。教員は、アドバイザーで

ある。一方、プロ研4・5・6・7は、それぞれの学科内で運営され、内容も専門性が強くなる。場合によっては、プロ研7(卒業研究)への足がかりを3年次から固めることができる。

今回の展示物は、2003年後期、2004年前期および後期の一カ年半、延べ47名の学生によって実施された調査研究「鳥取県・名水地図の作成」の成果である。



再び、中電ホールの名水展に戻る。

会期の最終日に、米子から4人の小学校時代の同級生が来てくれた。昔の子供会のメンバーでもある。中学3年の夏まで米子で過ごした私は、父の転勤や自分の大学や勤務先の関係で以後、水戸、姫路、宝塚、京都、大阪と移り住んだが、鳥取環境大学への赴任後は、歓迎会を催してもらうなど、米子を訪れる機会も多くなった。

そして、来展の4人に米子での名水展開催を持ちかけたところ、喜んで応援すること、9月19日から4日間、中国電力米子営業所の展示ギャラリーをお借りした。すでに、くだんの同級生たちによる会場係も決まった。昨日は、米子に住む88歳の女先生からも電話を頂戴した。奈良から駆けつける友達もいるそうだ。

米子市立義方小学校 昭和29年卒、名水展は52年ぶりの同窓会になりそうである。

